

せせらぎ



令和4年 10月 14日
富士市立原田小学校
学校だより 10月号

(令和4年度 重点目標) ○「いいね。」を広げよう ○よく聞いて 自分の考えをもとう

「シュリハンドク」

校長 大橋 幸治

先輩の先生から教えていただいた話を紹介します。聴いたときは「なるほど」と思っただけでしたが、時間が経つにつれ深く心に残っていることに気が付きました。

14年程前に亡くなった赤塚不二夫さんという漫画家があります。子供の頃には彼の原作のアニメがテレビでよく放映されていました。その中の一つに「天才バカボン」という漫画があります。そこに「レレレのおじさん」というとても個性的な人物が登場します。いつも箒をもって、「レレレのレー」と言いながら登場し去っていく不思議な人物です。赤塚不二夫さんはギャグ漫画の天才と言われた方なので、「レレレのおじさん」も作品の印象を強くするために一人で考え出したのだらうと思っていました。しかし、レレレのおじさんにはモデルがいるということです。



レレレのおじさんのモデルは、お釈迦さまの弟子で、「シュリハンドク」（漢字で書くと「周利槃特」）という人だそうです。シュリハンドクは、釈迦の弟子の中で、最も物覚えが悪く、自分の名前まで忘れてしまうほどでした。彼は自分の愚かさを嘆き、お釈迦さまの所に相談にいきました。お釈迦さまは、「自分が愚かだと気付いている人は、愚かではない。自分は賢いと思いがっている人こそ愚かなのだよ。」と教えます。そして、シュリハンドクに一本の箒を渡し「塵（ちり）を払わん、垢（あか）を除かん」と唱えながら掃除をするようにと伝えたそうです。

シュリハンドクは、箒を持って「塵を払わん、垢を除かん」と唱えながら何年も掃除をしたのですが、いくら掃除をしてもキリがないことに気づきます。そして「これは自分の心と同じだな。」と悟ります。「自分は愚かで役に立たないと、自分を値踏みして自ら苦しめていたことへの気付き」「自分の心を掃除するのは難しいということへの気付き」「心を掃除し続けたいという自分の気持ちへの気付き」そうしたことを悟った彼は、お釈迦さまの立派な弟子になったそうです。

赤塚不二夫さんがシュリハンドクを意識していたわけではないという説もありますので本当にモデルだったかどうか分かりませんが、私はレレレのおじさんからシュリハンドクを知るきっかけをもらいました。

シュリハンドクのように、今の自分には見えないだけで、些細な物事の中に素晴らしい気付きが隠されているかもしれません。先入観に惑わされず、自分や周りの人や物事を丁寧に見たり考えたりすることに努めていきたいと思います。

また、この話を聴いてから、自分が掃除等をする時にシュリハンドクのことを考えるようになりました。また、コミュニティスクールボランティアの方々が、お掃除や草刈りをやってくださっている中で、どんな心持ちでやってくださっているのか考えるようになり、さらに強く有難さを感じるようになりました。些細な気付きが自分を変化させていきます。一生学んで、変化し続けたいと思うこの頃です。